

大崎市社会福祉協議会地域福祉市民活動計画策定のための行政区長調査結果概要

1、目的

この調査は、第三次大崎市社会福祉協議会が予定している地域福祉市民活動計画を策定するに当たり、市内の行政区長を対象として地域福祉活動を推進するための課題を明らかにすることを目的とする。

2、調査実施主体

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会

3、調査対象

大崎市における行政区長 363名

4、調査期間

令和元年3月～6月

5、調査方法

質問紙による配票留め置き法

6、集計分析

集計分析は、統計処理を行うものとし、東北福祉大学都築研究室に委託する。

7、調査項目

基本属性(性別、年齢、居住地域、経験年数)、世帯数、地区活動(広報誌、福祉マップ、福祉部設置状況)活動上必要なもの、活動の充実状況、今後の課題、今後の方向性

8、回収成績

行政区長363名中、311名から有効回答を得た。
(回収率：82.5%)

大崎市社会福祉協議会

地域福祉市民活動計画査定のための地域役職調査結果報告概要報告

1、基本属性（性別、年代、居住地区）

1) 地区別性別内訳

地区と性別のクロス表

		男性	女性	合計
古川	度数	142	1	143
	%	99.3	0.7	100.0
松山	度数	21	0	21
	%	100.0	0.0	100.0
三本木	度数	21	0	21
	%	100.0	0.0	100.0
鹿島台	度数	25	1	26
	%	96.2	3.8	100.0
岩出山	度数	35	0	35
	%	100.0	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	29	0	29
	%	100.0	0.0	100.0
田尻	度数	35	0	35
	%	100.0	0.0	100.0
合計	度数	308	2	310
	%	99.4	0.6	100.0

各地区の役職員別に性別を見てみると、どの地区においてもほとんどが男性を占めており、大きな違いは見られなかった。

2) 地区別年代別内訳

地区と年齢のクロス表

		60歳未満	60歳以上～65歳未満	65歳以上～70歳未満	70歳以上	合計
古川	度数	1	10	50	82	143
	%	0.7	7.0	35.0	57.3	100.0
松山	度数	0	2	8	11	21
	%	0.0	9.5	38.1	52.4	100.0
三本木	度数	0	2	10	9	21
	%	0.0	9.5	47.6	42.9	100.0
鹿島台	度数	0	3	7	17	27
	%	0.0	11.1	25.9	63.0	100.0
岩出山	度数	1	2	16	16	35
	%	2.9	5.7	45.7	45.7	100.0
鳴子温泉	度数	2	1	6	20	29
	%	6.9	3.4	20.7	69.0	100.0
田尻	度数	0	2	14	19	35
	%	0.0	5.7	40.0	54.3	100.0
合計	度数	4	22	111	174	311
	%	1.3	7.1	35.7	55.9	100.0

年代別に見てみると、ほぼ65歳からの分布となっており、65歳～69歳について10%前後が古川や志田地区となっており、それ以外は5%前後である。65歳～69歳では、三本木地区の47%から鳴子温泉の20%まで差がみられた。70歳以上では、鳴子温泉地区の69%から三本木地区の42.9%となっており、60歳代と70歳代に大きく分かれている。

3) 地区別在職年数内訳

地区 と 在職年数 のクロス表

		3年未満	3～6年未満	6～9年未満	9～12年未満	12年以上	合計
古川	度数	42	41	26	19	15	143
	%	29.4	28.7	18.2	13.3	10.5	100.0
松山	度数	6	7	3	3	2	21
	%	28.6	33.3	14.3	14.3	9.5	100.0
三本木	度数	9	6	4	1	1	21
	%	42.9	28.6	19.0	4.8	4.8	100.0
鹿島台	度数	11	5	4	3	4	27
	%	40.7	18.5	14.8	11.1	14.8	100.0
岩出山	度数	7	12	5	3	7	34
	%	20.6	35.3	14.7	8.8	20.6	100.0
鳴子温泉	度数	5	5	5	4	10	29
	%	17.2	17.2	17.2	13.8	34.5	100.0
田尻	度数	9	12	6	6	2	35
	%	25.7	34.3	17.1	17.1	5.7	100.0
合計	度数	89	88	53	39	41	310
	%	28.7	28.4	17.1	12.6	13.2	100.0

役職員の在職年数を見てみると、全体としては6年未満が半数以上を占めている。地区別にみると、3年未満は三本木や鹿島台に多く、3～6年未満では松山、岩出山、田尻の各地区が多く、12年以上の長期では岩出山、鳴子温泉地区が多くなっている。

4) 担当行政区の世帯数

地区 と 担当行政区の世帯数 のクロス表

		100世帯未満	100世帯以上300世帯未満	300世帯以上500世帯未満	500世帯以上700世帯未満	700世帯以上	合計
古川	度数	66	36	33	7	1	143
	%	46.2	25.2	23.1	4.9	0.7	100.0
松山	度数	18	3	0	0	0	21
	%	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
三本木	度数	14	7	0	0	0	21
	%	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
鹿島台	度数	11	14	2	0	0	27
	%	40.7	51.9	7.4	0.0	0.0	100.0
岩出山	度数	21	14	0	0	0	35
	%	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	19	10	0	0	0	29
	%	65.5	34.5	0.0	0.0	0.0	100.0
田尻	度数	27	8	0	0	0	35
	%	77.1	22.9	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	176	92	35	7	1	311
	%	56.6	29.6	11.3	2.3	0.3	100.0

担当行政区の世帯数は、100世帯未満が半数を占めており、地区別では松山が85.7%、同じ志田地区内の鹿島台の40.7%となったほか、100世帯～300世帯未満では、鹿島台51.9%から松山の14.3%までと、大きな違いがみられた。300世帯以上は、古川地区と鹿島台のみに分布し、それ以外の地域も300世帯未満が多数を占めた。

2、地区活動状況

1) 町内会などの加入

町内会などに加入していない世帯があるかのクロス表

		ある	なし	その他	合計
古川	度数	74	67	2	143
	%	51.7	46.9	1.4	100.0
松山	度数	5	16	0	21
	%	23.8	76.2	0.0	100.0
三本木	度数	5	14	1	20
	%	25.0	70.0	5.0	100.0
鹿島台	度数	10	17	0	27
	%	37.0	63.0	0.0	100.0
岩出山	度数	25	10	0	35
	%	71.4	28.6	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	16	12	0	28
	%	57.1	42.9	0.0	100.0
田尻	度数	6	29	0	35
	%	17.1	82.9	0.0	100.0
合計	度数	141	165	3	309
	%	45.6	53.4	1.0	100.0

町内会未加入者の有無については、全体の半数以上はなしという結果であった。地区別の内訳では、古川地区のほか、岩出山および鳴子温泉の地区において、半数以上の区長から「ある」という回答であった。全体としては、古川と玉造地区に未加入者がいる行政区が多く、それ以外の地区は未加入者がいない行政区が多いという結果となった。

2) 地区活動拠点

地区と地域に集まれる場所があるかのクロス表

		①地域に無料で気軽に集まれる場所がある	②地域の有料の施設を利用している	③地域の無料の施設を利用している	④地域に有料で気軽に集まれる場所がある	⑤集まれる場所がない	⑥その他	合計
古川	度数	83	18	10	23	6	3	143
	%	58.0	12.6	7.0	16.1	4.2	2.1	100.0
松山	度数	19	0	2	0	0	0	21
	%	90.5	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	100.0
三本木	度数	14	1	1	5	0	0	21
	%	66.7	4.8	4.8	23.8	0.0	0.0	100.0
鹿島台	度数	22	1	1	2	1	0	27
	%	81.5	3.7	3.7	7.4	3.7	0.0	100.0
岩出山	度数	22	5	5	2	1	0	35
	%	62.9	14.3	14.3	5.7	2.9	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	21	1	4	1	2	0	29
	%	72.4	3.4	13.8	3.4	6.9	0.0	100.0
田尻	度数	25	1	6	3	0	0	35
	%	71.4	2.9	17.1	8.6	0.0	0.0	100.0
合計	度数	206	27	29	36	10	3	311
	%	66.2	8.7	9.3	11.6	3.2	1.0	100.0

市内の66.2%の地区では、無料で気軽に集まることができる場所があるという回答であった。松山や三本木の比率が高く、古川が58%で最も低かった。どの地区でも、90%以上の行政区に集まることができる場所があるという結果であった。

3) 広報誌の発行

地区 と 地域では広報誌を発行しているかのクロス表

		発行している	発行していない	発行の予定がある	合計
古川	度数	41	100	2	143
	%	28.7	69.9	1.4	100.0
松山	度数	6	15	0	21
	%	28.6	71.4	0.0	100.0
三本木	度数	3	18	0	21
	%	14.3	85.7	0.0	100.0
鹿島台	度数	8	19	0	27
	%	29.6	70.4	0.0	100.0
岩出山	度数	11	24	0	35
	%	31.4	68.6	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	6	23	0	29
	%	20.7	79.3	0.0	100.0
田尻	度数	11	24	0	35
	%	31.4	68.6	0.0	100.0
合計	度数	86	223	2	311
	%	27.7	71.7	0.6	100.0

地域における活動において、広報誌発行行政区は27.7%で、岩出山や田尻は30%を超えている一方で、三本木は14.3%と少なかった。

3、福祉部について

(福祉部とは福祉に特化した部門、体育部や女性部と同じレベルの枠組みを言う。)

1) 設置状況

地区 と 福祉部を設置しているかのクロス表

		設置している	設置していない	設置する予定がある	合計
古川	度数	54	86	1	141
	%	38.3	61.0	0.7	100.0
松山	度数	5	16		21
	%	23.8	76.2	0.0	100.0
三本木	度数	5	15	1	21
	%	23.8	71.4	4.8	100.0
鹿島台	度数	3	23	1	27
	%	11.1	85.2	3.7	100.0
岩出山	度数	13	21	1	35
	%	37.1	60.0	2.9	100.0
鳴子温泉	度数	5	22		27
	%	18.5	81.5	0.0	100.0
田尻	度数	34	1		35
	%	97.1	2.9	0.0	100.0
合計	度数	119	184	4	307
	%	38.8	59.9	1.3	100.0

福祉部の設置状況については全体では38.8%設置している。田尻が97.1%で最も高く、鹿島台が11.1%で最も低かった。

4、福祉マップ、見守りネットワーク名簿・台帳等の作成

地区 と 福祉マップ、見守りネットワーク名簿・台帳等の作成の有無 のクロス表

		作成している	作成していない	作成する予定である	合計
古川	度数	74	60	3	137
	%	54.0	43.8	2.2	100.0
松山	度数	16	5	0	21
	%	76.2	23.8	0.0	100.0
三本木	度数	1	18	1	20
	%	5.0	90.0	5.0	100.0
鹿島台	度数	9	14	4	27
	%	33.3	51.9	14.8	100.0
岩出山	度数	8	23	2	33
	%	24.2	69.7	6.1	100.0
鳴子温泉	度数	9	19	0	28
	%	32.1	67.9	0.0	100.0
田尻	度数	10	25	0	35
	%	28.6	71.4	0.0	100.0
合計	度数	127	164	10	301
	%	42.2	54.5	3.3	100.0

福祉マップ、見守りネットワーク名簿・台帳等の作成状況は、全体としては42.2%であった。地区別では松山が76.2%で最も高く、三本木が5%で最も低い結果となり、地域によって違いがみられた。

5、地域福祉活動の課題

1) 活動拠点の必要性

地区 と 拠点の必要性 のクロス表

		必要	まあまあ必要	どちらとも言えない	あまり必要でない	必要ない	合計
古川	度数	100	27	6	2	0	135
	%	74.1	20	4.4	1.5	0.0	100.0
松山	度数	14	3	3	0	0	20
	%	70.0	15.0	15.0	0.0	0.0	100.0
三本木	度数	12	6	1	2	0	21
	%	57.1	28.6	4.8	9.5	0.0	100.0
鹿島台	度数	20	4	2	0	0	26
	%	76.9	15.4	7.7	0.0	0.0	100.0
岩出山	度数	24	5	3	1	1	34
	%	70.6	14.7	8.8	2.9	2.9	100.0
鳴子温泉	度数	10	5	6	4	2	27
	%	37	18.5	22.2	14.8	7.4	100
田尻	度数	26	8	1	0	0	35
	%	74.3	22.9	2.9	0.0	0.0	100.0
合計	度数	206	58	22	9	3	298
	%	69.1	19.5	7.4	3.0	1.0	100.0

活動拠点の必要性について、全体で69.1%の行政区長が必要であると回答していた。地区別では、鹿島台で76.9%で最も高く、田尻や古川でも74%を超えていた。一方で鳴子温泉で37%で最も低く、必要ないと回答する行政区長も7.4%いた。

6、これまでの活動の評価と今後の方向性

1) これまでの活動の評価

地区と現在の地域福祉活動の充実度 のクロス表

		充実している	まあまあ充実している	どちらとも言えない	あまりできていない	できていない	合計
古川	度数	9	43	46	33	2	133
	%	6.8	32.3	34.6	24.8	1.5	100.0
松山	度数	1	5	6	8	0	20
	%	5.0	25.0	30.0	40.0	0.0	100.0
三本木	度数	0	2	9	9	0	20
	%	0.0	10.0	45.0	45.0	0.0	100.0
鹿島台	度数	0	9	13	4	0	26
	%	0.0	34.6	50.0	15.4	0.0	100.0
岩出山	度数	0	7	21	4	0	32
	%	0.0	21.9	65.6	12.5	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	1	3	14	7	1	26
	%	3.8	11.5	53.8	26.9	3.8	100.0
田尻	度数	1	22	9	2	0	34
	%	2.9	64.7	26.5	5.9	0.0	100.0
合計	度数	12	91	118	67	3	291
	%	4.1	31.3	40.5	23.0	1.0	100.0

これまでの地域福祉の推進状況に関し、行政区長からは全体として「充実している」「まあまあ充実している」を合わせると35.4%であった。一方で「できてない」「あまりできていない」を合わせると24.0%であった。「どちらとも言えない」が40.5%となった。やや好意的な評価が得られている。「充実している」「まあまあ充実している」を地区別でみると、田尻が67.6%で最も高く、次いで古川が39.1%であった。一方「あまりできていない」「できていない」については、三本木が45%、松山が40%で高い値となっている。

2) 活動の方向性

地区と今後の活動をどうしていくか のクロス表

		もっと力を入れるべき	今のままでよい	力を入れなくてもよい	合計
古川	度数	76	54	0	130
	%	58.5	41.5	0.0	100.0
松山	度数	8	12	1	21
	%	38.1	57.1	4.8	100.0
三本木	度数	11	8	0	19
	%	57.9	42.1	0.0	100.0
鹿島台	度数	13	13	0	26
	%	50.0	50.0	0.0	100.0
岩出山	度数	22	9	0	31
	%	71.0	29.0	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	15	8	3	26
	%	57.7	30.8	11.5	100.0
田尻	度数	14	20	0	34
	%	41.2	58.8	0.0	100.0
合計	度数	159	124	4	287
	%	55.4	43.2	1.4	100.0

地域福祉推進の今後の方向性については、全体として「もっと力を入れるべき」「現状でよい」を合わせて98.6%で、現在の方向性の充実を求めている行政区長が多かった。

3) 地域福祉活動上必要なもの

地区と今後大切なもののクロス表

		ヒト(人)	モノ(物)	カネ(金)	ジョウホウ (情報)	オモイ(思 い)	合計
古川	度数	93	0	7	9	29	138
	%	67.4	0.0	5.1	6.5	21.0	100.0
松山	度数	16	0	1	2	2	21
	%	76.2	0.0	4.8	9.5	9.5	100.0
三本木	度数	16	0	1	3	1	21
	%	76.2	0.0	4.8	14.3	4.8	100.0
鹿島台	度数	20	0	2	1	3	26
	%	76.9	0.0	7.7	3.8	11.5	100.0
岩出山	度数	23	0	2	5	4	34
	%	67.6	0.0	5.9	14.7	11.8	100.0
鳴子温泉	度数	17	0	4	2	5	28
	%	60.7	0.0	14.3	7.1	17.9	100.0
田尻	度数	26	0	2	2	5	35
	%	74.3	0.0	5.7	5.7	14.3	100.0
合計	度数	211	0	19	24	49	303
	%	69.6	0.0	6.3	7.9	16.2	100.0

今後の地域福祉活動上大切なものとしては、ヒト(人)と回答している地域が多く、どの地域でもやはり人材不足が問題であるといえる。

7. 調査のまとめ

地域福祉推進に関する行政区長を対象とした今回の調査では、基本的に現在の地域福祉推進の方向性のままで、一層の充実を図ることが求められた内容となった。ただし回答者のほとんどが男性で、65歳以上の方々が回答者であったことも認識しておく必要がある。また半数以上が100世帯未満の行政区長であった。

課題として捉えられた点は、広報誌発行や福祉部設置を行っている行政区が未だ多くはないという点であった。それぞれの活動上の意義について確認し、共有を図る必要がある。

また行政区長からは、地域福祉推進状況に関し、一定の評価が得られている。これは常日頃の活動に関して、各支所を中心とした活動に対する信頼の表れとみることができよう。今回の結果を、しっかりと次期計画に反映させる必要があると思われる。